

たかいし



<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido4shou/>

杉並区立高井戸第四小学校

「待つ」という文化

主幹教諭 小室 純子

高四小に異動してきて感激したことの一つに6年生の委員会・クラブ・縦割り班活動でのリーダーシップがあります。もちろん6年生になったからといって、初めから上手にリーダーシップが取れるわけではありません。でも、来年はリーダーとして活動するんだという覚悟を5年生のうちから感じ取り、先輩の背中を見て学んでいます。そして、試行錯誤を繰り返しながら、高四小のみんなが気持ちよく過ごすためには、みんなが楽しめるためには・・・と考えていきます。効率的ではないこともあります、だんだん下学年をまとめられるようになり、リーダーシップが身についていきます。前年度のうちから来年度のことを意識させ、多少時間がかかるても子供たちの自主性を大切にし、試行錯誤する過程を大切にしていこうとする高四小の伝統は素晴らしいなと感じています。

前述したような高四小の伝統が、時間と共に自然に伝わってきたのかというとそうではありません。時間がかかっても試行錯誤をする時間を確保したり、失敗しても一人一人の気付きやチャレンジする機会を大切にしたりする「待つ」という文化が高四小にあったからにはなりません。子供たちに任せ、待つことは価値のあることとして共通理解され、実践していくうちにそれが文化となり、やがて伝統になってきたのだと思います。また、6年生は、リーダーとしての覚悟、5年生は見て学ぶという意識、それらが大切なとして守られていくうちに、子供たちの中にもそれらが文化となり伝統となっていました側面があります。いずれも、その時に関わってきた人たちが大切だと思い、守ってきたからこそ今に伝わっているのです。

世の中には、伝統として受け継がれているものがたくさんあります。時代に合わせて少しづつ姿は変わっていくのかもしれません、思いは受け継がれています。効率的にすることや即効性を求められがちな現代だからこそ、「待つ」ことの価値を再認識し、今日まで途切れることなく受け継いできた高四小の伝統を大切にしていきたい思う今日この頃です。

「じゃあ、高四まつりも年中行事だ。」4年生と学習した社会科の時間に、伝統として受け継がれている文化財や年中行事について学習したときの一言です。子供たちなりに、昔から続いていることに価値を見出し、尊いものとして感じてくれているように思います。

今年も高四まつりの季節がやってきます。6年生がリーダーシップを発揮し、そのもとで下級生たちが意見を出し合い、みんなが楽しめるおまつりにしようという思いでつながっています。どんなおまつりになるのか、そして、5年生は、6年生の姿を見ながら来年度のリーダーとしてどのように動けばいいのかを学び、次の世代へまたバトンが無事渡していくことを見届けたいと思っています。

【お知らせ】

◆読書月間について

10月2日(月)から読書月間が始まります。10月31日(火)まで、全校朝読書、各クラスの保護者の方やボランティアの方による読み聞かせ、図書委員からの本の紹介やイベントが企画されています。

◆体育館の開放について

体育館バスケットゴールの修繕工事が終了し、通常通り開放ができるようになりました。